

近年、テレビや新聞、雑誌などに登場するビジネスマンの多くがSDGs（エスディージーズ）バッジを付けている姿を目にしますが、世界経済フォーラムの調査によると日本における認知度は諸外国と比べると余り高くはないとのこと。そこで前回、7月15日発行の「こぶし30号」で生活部会長の中園教一さんから「SDGs（持続可能な開発目標）」について概要紹介がありました。今日的に重要なテーマであることから、今回さらに詳しく紹介させていただきます。

SDGsって何？ コミュニティ活動と日常生活の中から考える

星が丘1丁目 中園 教一

コロナ感染も落ち着きつつあるものの、以前の日常生活に戻るには、まだまだ時間が必要かと思いますが、いかがお過ごしでしょうか。さて、前回発行の「会報こぶし 第30号」の新役員紹介の中で、生活環境部会活動に関連し、SDGsについて少し触れたところ、SDGsについてもう少し詳しく知りたいという声があり、前回に引き続き、紹介したいと思います。

まず、SDGsとは(Sustainable Development Goalsの略で、持続可能な開発目標と訳す)、2015年9月に経済発展だけを取り組むのではなく、貧困・不平等・格差、気候変動、環境保全、生活・暮らしの向上、最近の課題となっているジェンダー平等実現など、これらを取り巻く環境や社会の抱える問題に取り組み、それらの根本的な解決により、持続可能な社会を作ること为目标に、国連で世界各国の政府によって採択されたもので、2030年目標達成を目指しています。

国連で決めたものと言うと、国や自治体、企業が取り組むものと思いがちですが、実は私達一人ひとり個人もSDGsに定められた目標達成に向けた課題意識と行動が求められているということです。

そこでSDGsで掲げられた17の具体的な目標の中で、私達の日常生活・暮らし、コミュニティ活動との係わりについて、一部具体例を上げご紹介したいと思います。

前回にも少し触れましたが、廃棄物の削減や資源のリサイクルと言った取り組みは目標12の「つくる責任 つかう責任」に該当するのですが、その中に「すべての国が、一人当たりの食品廃棄量を全体で半分に減らすこと」が掲げられています。私達の家庭で「安かったのでつい沢山買った、冷蔵庫の奥に仕舞い込んだため気付くのが遅れ、食べ物が期限切れになり廃棄」といったことはありませんでしょうか。

東京オリンピック選手村での食事の大量廃棄、いったい日本国内で年間にどれぐらい食品が廃棄されているかと言うと、国民一人当たり年間約47kg(平成30年農林水産省統計データより抜粋) 廃棄されているとのこと。これは年間一人当たりの米の消費量約54kgに近い量に相当します。食品の無駄・口

スをなくすこと、これもSDGs目標の一つです。

次に、私達が取り組んでいる地域のコミュニティ活動の一つでもある「街づくりへの参加の確保や、災害に強い街や地域をつくること」は目標11の「住み続けられるまちづくりを」に該当します。

記憶に新しい東日本大震災や地球温暖化の影響によると思われる気候変動による豪雨災害などに対する備えの強化など、災害に強く、人の命を大切に、安心・安全に暮せる地域づくりも重要な取り組みです。

私が住む星が丘一丁目を流れる枇杷沢川、新緑と秋の紅葉が美しい絶景スポットで、町内住民にとって憩いの場でもありますが、数年前まではシギが生い茂り景観が損なわれ、そこに住む水棲生物にも影響を与えかねない状況でした。花巻市に依頼し川中の大量の土砂とシギの除去を実施して頂きました。

以降、町内と隣の星が丘二丁目の一部有志による年数回の奉仕活動（川中の膝丈程度の草の除去）により、写真の様



景観の維持・保全が図られています。これらの活動も目標11と目標15「陸の豊かさを守ろう」の実現に向けた取り組みの一つかと思えます。

このように私達は、実際には日々の生活、活動の中でSDGsの目標実現に向けた取り組みを推進している訳で、これをいかに認識し、意識的に行動するかが目標達成にかかっていると言っても過言ではないかと思えます。

そうすることで、素晴らしい地域の財産を次世代に引き継ぎ、将来に渡り、明るく活気ある地域が実現出来るのではないかと思います。目標の全てを取り上げることは物理的に難しいですが、参考にして頂ければ幸いに存じます。

最後に、こぶしに寄稿するに当たり、私自身もSDGsを深く掘り下げ考えさせられる良い機会となったことに深く感謝申し上げます。

〈参考資料〉

去る、9月25日付け岩手日報に掲載されたSDGs（※別記：2030年までに達成すべき17の目標）に関する記事によると、推進に前向きな県内企業（調査対象190社、回答96社、回収率50.5%）の割合は39.6%で、前年からほぼ倍増したと帝国データバンク調査結果が紹介され、社会貢献や企業イメージ向上につながる課題である指摘している。具体的には、SDGsについて「意味や重要性を理解し取り組んでいる」が16.7%、「意味や重要性を理解し取り組みたいと思う」が22.9%。一方、「言葉は知っていて意味や重要性を理解できるが取り組んでいない」が35.4%、「言葉は知っているが意味や重要性を理解できない」が11.5%、「言葉も知らない」は3.1%、「分からない」が10.4%と認知度は少しずつ高まってきているが、取り組みに消極的なことや理解が進んでいないとのこと。

県内企業が17の目標のうち、力を入れている項目別（複数回答）では「働きがいも経済成長も」が37.5%、「つくる責任つかう責任」が29.2%、「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」28.1%、「住み続けられるまちづくりを」24.0%。SDGsへの取り組みを前向きと回答した企業の割合は、大企業が47.0%、小規模企業が26.1%であったと紹介されている。花北地区在住の皆様、企業経営されている方々もSDGsについて次のページの資料を参考にしながら一緒に考え理解を深め行動につなげましょう。